

商店街活性化若手プロジェクト 第1回商店街 HACK イベント「地域の魅力を発掘し、発信する」開催結果

- 1 日時：2016年11月22日（火）午後7時～9時30分
- 2 場所：KRP 町家スタジオ
- 3 参加者：一般参加者 27名、商店街活性化若手プロジェクト、京都府 ほか
- 4 タイムテーブル：
 - 19：00 ～ 事業説明
 - 19：10 ～ ゲストによるトーク
 - 19：50 ～ 質疑応答
 - 20：10 ～ 交流タイム



- 5 概要：
 - ① 参加者全員の自己紹介
 - ② 山本あつし氏によるトーク

山本あつし氏（クリエイティブ・イントロデューサー）プロフィール

1971年大阪生まれ、奈良在住。システムエンジニア、建築設計のキャリアを経て、現在はデザイン思考によって「あらゆる物事の本質を見つけ創造的に伝える」という考えのもと、領域横断プロジェクトを数多く手掛ける一方、大阪芸術大学デザイン学科、奈良佐保短期大学生活未来科などで講師を務める。

また、奈良の市街地にある下御門（しもみかど）商店街の企画・広報、同商店街内にあるダンスホールをリノベーションしたカフェ「Sankaku」のプロデュースを手掛けるなど、地域に密着した活動も行っている。

<自己紹介>

- クリエイティブ・イントロデューサーとは、創造的にものごとを紹介していくこと。
具体的にやっていることは、メディア制作、シネアドで地元PRのVTR（10分）の制作、フリーペーパー、冊子、サイトの制作、やまと茶のブランディング
- もともと建築家。自宅をモデルハウスとして、イベント、ワークショップ、カフェを開催。そこから、様々な場所をプロデュースするようになった。

<下御門商店街（奈良市）での活動について>

- 下御門商店街・・・全体27店舗。駅から遠く、経営者は高齢化。しかも10軒は独身者で跡継ぎもいない。職住一体。月1回、土曜日の朝7時からみんなで掃除をするのが恒例。この日だけは一致団結して掃除をする（商店街が坂道にあるので、水を流すとよその店舗の前を流れるため、一斉に清掃をするようになった）。
- 坂道なので、人と人をつなぐ、坂のある商店街としてブランディングする。
坂を利用して、「流しそうめん」のイベントを開催するようになった。1,200人の来場者。次年も実施。3年目にはソーメンの朝食も加わった。
- 奈良駅前には8つの商店街があり、店舗が計550店ある。2014年に連携して何かできないかということで、8商店街のまちあるきと演劇を合わせたイベント「商店街8（エイト）」を企画。奈良時代から来た天平人に今の奈良を案内してもらおう、逆転観光。
今までなかった商店街の若者同士の交流がうまれた。今後、天平ツアーに力を入れていこうかと思う。

<商店街の活動に関わって発見したこと>

- あきらめるというデザイン・・・「あきらめる」の語源は「明らかにする」ということ。その商店

街しかないもの、今あるものを明らかにして活かしていくことが大事。

- 巻き込むより巻き込まれる・・・自分が楽しいと思うことは他人もそう思っている。
- 学習しながらネットワークする。
- 価値を拾っていくことが大事、すなわち「あきらめる」
- まちの良さに気づく人を発見する。
- デザイン（見せ方）は、若者向けだが、誰が見てもよいと思うデザインを心がける（チープなものも駄目）。
- 前例にとらわれず前に進む。

③ 質疑応答

- 商店街の中にネガティブな人はいなかったか。
⇒ いる。みんながそう。流しそうめんのアイデアも、もともとは理事長が長年思っていたものだったが、みんなが反対してできなかった。第三者が推すことで実現した
- イベントをして変わったか。一過性でなく、そこから継続的なものが生まれたか。
⇒ 5年間で新店舗が3店できた。掃除以外でみんなが集まる機会が増えた。
- 独身の商店主は怎么样了か。
⇒ そのまま。商店街で終活事業をする。みんなで終わり方を考える話し合いをしている。
- イベントをして各店舗の売り上げはあがったか。
⇒ イベントに力を注ぎ込み本業が疎かになったところもある。飲食店や新しくできた店など売り上がった店もある。店によっていろいろである。
- どうしたらアイデアが出てくるのか。ひとりの思いつきか、ワークショップなどか。
⇒ いろいろな人と話をする。なるべく立場の違う人と話をする。違いが楽しくなる。

④ 交流タイム

- 山本あつし氏+参加者同士が、名刺交換、情報交換、意見交換等を実施

以上